

池上の特殊車両向け・LEX製品 川崎工場に生産移管

日本製造

大手製造メーカー、日本製造は2020年度下期をめぐり、池上工場（川崎区池上町）で手掛ける特殊車両向け足回りの部品と低熱膨

集約化でコストダウン図る

張合金「LEX（レックス）」を素材に用いた製品の生産を川崎工場（川崎区白石町）に移管する。池上工場はシームレス鋼管圧延用穿孔プラグなどに品種を特化することで、生産効率向上に伴うコストダウンを図る。特殊車両向け部品とLEX製品の生産は川崎工場に集約する。

池上工場はJFEスチール東日本製鉄所（京浜地区）内にあり、月間生産能力は1000ト。耐摩耗鋼や耐熱鋼など合金元素を含む特殊鋼製品を得意とし、全体量の約5割を占めるシームレス鋼管圧延用穿孔プラグを主体に、ごみ焼却炉用部品や特殊車両部品、LEX製品などを生産している。

シームレス鋼管圧延用穿孔プラグは新型コロナウイルス感染症影響によって、世界中で経済活動低下を余儀なくされる中、原油価格

が低迷し、油井管用シームレス鋼管需要が著しく減少。池上は、同プラグの大幅減産を余儀なくされている。池上は敷地面積、工場建屋面積ともに規模が小さく、生産設備の拡張などが難しい環境にある。生産性向上を図るためには品種を特化する必要があると判断し、川崎への一部移管を決めた。川崎は移管される品種をすでに手掛けており、集中的に生産することでコストダウン効果などを期待する。

移管品種のうち特殊車両向け部品は、900が被殻の高強度・高靱性を誇る自社開発製品「TNCM1」で、低温下でも高い衝撃性能が保持されるなどの特長が評価され、需要家から継続受注している。LEX製品は池上の生産全体に占める割合が10%程度で、川崎に移管することで生産性アップを狙う。また

川崎はLEX開発などを手掛ける素材材開発技術部も併設していることから、研究開発面でシナジー発揮も目指す。